

日本現代歌人叢書 第五十七集

鈴鹿俊子歌集



著 者 略 歴

鈴鹿俊子（すずかとし子）

川田順に師事

著 書

歌集「蟲」「寒梅未明」「素香集」

エッセイ集「女の心」「死と愛と」「黄昏記」

現代歌人協会、日本歌人クラブ、

日本ペンクラブ 各会員

現住所 〒751 神奈川県藤沢市辻堂 6361

川田方

鈴鹿俊子歌集

日本現代歌人叢書 第57集

昭和62年3月25日発行

定価 1800円

著 者 鈴 鹿 俊 子

発行者 萩 原 廸 夫

発行所 懶 芸 風 書 院

東京都文京区本郷1-15-4

〒113 文京尚学ビル

電話 03-814-9591 (代)

振替 東京 0-47841

表紙デザイン＝佐伯 真

印刷 (株) K M S

落丁・乱丁本はお取り替えいたします。

0 5 2 8



著者近影

日本現代歌人叢書 第五十七集

鈴鹿俊子歌集

「素香集」とその後

芸風書院

目次

飛 天	10
鐘	16
冬の富士	22
梅咲ける	27
手箱と一巻の般若心経	31
雪の金沢	34
春の霖雨	36
皆既日蝕	41
大坂城	43
那智より高野へ	46
鳥 葬	49
小さな旅	55
みんなみの島にて	60
夏 日	65

夢の花	69
壺	80
アラスカを飛びて	81
西国の寺々を巡る	84
家　居	88
足摺岬	91
富士裾野の碑	97
きりづみ	102
悼	105
流　氷	108
かごしま	110
ふたたび冬	112
卷末　覚え書き	124

「素香集」とその後

飛 天

靈鳥の鳳凰まさに飛び立たむその翼の廊にわ
れは佇ちたり

長押^{なげし}上の白壁にみる飛天仏雲上に舞ひて背^{せな}を
見せたり

首かしげ笛吹く飛天のかぎりなき揺曳^{ようえい}にまな
こ瞑らむとする

現世ならぬよき世夢みし莊嚴も剝落の仏と木
目立つ親し

天女らの奏でる音楽宇治川の水明りする薄暮
にひびかむ

玄奘げんじやうの見たりしパーミヤーンの壁画の飛天重
なり想はる雲中天女らに

何も手に持たぬ飛天の雲に坐すかたち凡なる
眼にはさびしき

如来像の光背の中なる飛天たちからくさの美
にみすぐさむとす

すかしぼりの唐草の中なる飛天仏うたかたの
夢ならずゐませり

幻影と思ほゆるまでに剝落せし壁画世紀末の
心で見えてゐつ

池に映る御堂は大樹の蔭とかさなり現^{うつ}を超え
し美をかもしゐる

阿宇池をへだて格子上の仏よつの御顔見し緊張の
ままにあゆみつ

知盛に破れ逃れて七十六歳の頼政果てし地つちに
いまゐる
(扇の芝にて)

知盛も頼政も好む武将なりたたかふ運命えんめい思ひ
悲しむ

睡蓮のいま咲きゐるを花のさくこともなかり
しと頼政は嘆きぬ

白芙蓉咲き初めゐたりひとのつくりし莊嚴み
たるのちのやさしさ

相對ふ屋根の鳳凰のシンメトリー世の理^{ことわり}に
叶ふ美ならじや

池のみ堂の影もぼやけて逢魔時の空か妖しく
一点明るき

*

都会人の含羞もちて日ざかりの旅の町にて食
ぶぶつかき氷

列車のわが眼と平行の白雲が畏怖のかたちに
鋒^{きつさき}向けつ

駅のホームひたすらに掃除する老爺若きらと
同じ制服着てゐつ